

国際経済環境研究分野

貿易と環境

教授
佐竹 正夫

フラウンホファー ISE にて



フライブルグの町の風景



エコホテル見学

本研究分野は、国際経済に関する環境問題をテーマとしている。具体的には、国際貿易や直接投資による企業活動が地域的及び国際的な環境にどのような影響を与えるのかを基本的な課題として、それに関連する政策的・実証的な研究を行う。グローバル化の進展は環境に悪影響を与えるとししばしば主張されるが、貿易と環境の関係はそれほど単純ではない。生産や所得への効果だけでなく、産業構造や技術への効果を通して、貿易は環境に影響を与える。それ以上に重要なのは各国並びに国際的な環境政策である。

佐竹研究室は、教員 1 名、後期課程学生 1 名、前期課程学生 3 名及び研究生 1 名からなる（他に国際文化研究科の後期課程学生 3 名を指導）。本年度の研究活動は次の通りであるが、本年度は教務センターや教務委員会などの仕事に時間をとられて、研究活動は不満の残るものであった。

1. 研究活動

昨年学会で発表した「GATT/WTO における環境をめぐる貿易紛争の経済分析—初期の二つの紛争について」を再検討している。本年度の学会活動としては、日本国際経済学会関東支部大会（7月9日、青山学院大学）の共通論題「WTOドーハ開発ラウンドの現状と課題」の第二報告「WTO農業交渉の課題と展望」に対して討論者としてコメントを行った。（コメントの内容は、岩田伸人「WTOドーハ開発ラウンドの現状と課題—2005年日本国際経済学会関東支部大会報告—」『世界経済評論』2005年9月号に収録）

論文「アンチ・ダンピングとWTO紛争解決手続き」所収の馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成編『日本の新通商政策—WTOとFTAへの対応』（文真堂）が9月に刊行された。これは近年急増しているアンチ・ダンピング措置

に対してWTOの紛争解決手続きがどれほどの役割を果たしているかを分析した論文である。アンチ・ダンピング措置の問題点を明らかにして、それを解決する手段としてWTOの紛争解決手続きがどれほど有効かを論じている。

新しい研究課題として、近年急増しているプラスチックなどの（循環）資源の国際貿易の実態とメカニズムを解明すること、そしてそれが国内のリサイクル・システムにどのような影響を及ぼすかを明らかにすることを考えている。それらは日本ではごみ（バズ）として逆有償で回収されているが、外国、特に途上国では資源（グッズ）として利用される。そこで、それらの資源が外国に輸出され、国内の再商品化の原料とならず、高度なリサイクル技術が活用されず、当初想定していた循環型社会の成立が困難になるという問題が生じている。これは循環型社会を閉鎖経済で考えていたため、開放経済を前提にして循環型社会を構想する必要があることを示唆している。この問題を、本学及び他大学の若手の研究者と共同で研究することを検討している。

2. 研究指導

指導している学生の研究題目は次のようなものである。中国の国際化と環境政策／中国の地域格差と大気汚染／中国内モンゴルにおけるカシミア貿易と砂漠化／ペットホルのリサイクルと中日貿易（以上 環境科学研究科）インドネシアの経済発展と直接投資／Development Strategy for Bosnia and Herzegovina／地域開発と社会資本（以上 国際文化研究科）

3. その他（海外調査、社会活動）

3月12日～21日に教務委員会の海外調査に参加して、イギリスとドイツの大学及び研究所を訪問。概要はTOPICSで紹介されている。東北大学リカレント公開講座「環境問題を科学する—物質循環を中心にして」で講義（4. 環境経済学入門：循環型社会の経済学、2004年8月9日）。

国際経済環境研究分野

環境資源経済分析と統計数理モデリング

助教授
吉本 敦

科学館イベント：丸太伐り環境教育



丸森小学生環境教育



中嶋君によるオープンキャンパスセミナー



オホーツク地域の植林事業視察



マングローブ林調査：奄美大島

1. 学会活動：

- ・4th Annual Hawaii International Conference on Statistics, Mathematics and Related Field (January 8 - 11, Hawaii, US)にて研究発表「Stochastic Control Models for Sustainable Forest Stand Management - Geometric Brownian Motion and the Mean-Reverting Model for Log Price Dynamics」
- ・FORMATH Kyoto 2005（「森林資源管理と数理モデル」シンポジウム）を京都府立大学にて企画・開催及び研究発表「Mean-Reverting 過程による林分経営最適確率制御モデルの比較分析」
- ・第22回国際林業研究機関連合世界大会（XXII IU-FRO World Congress）(August 8 - 13, 2005, Brisbane, Australia)にて研究発表「Evaluation of carbon sequestration and thinning regimes within the optimization framework for forest stand management」

2. 公開講座等の活動：

- ・オープンキャンパスにて、丸太伐りによる環境教育（7月28 - 29日）
- ・国連大学グローバルセミナー東北セッションにアドバイザーとして参画（岩手大学、9月11 - 14日）
- ・宮崎大学農学部にて非常勤講師（数理計画法、9月25 - 30日）

- ・「仙台発～太陽光を利用した夢の水素づくり」（10月22 - 23日）にて講演「森林と植物の役割と利用：地球温暖化から地球をまもるために」及び丸太伐りにて環境教育

3. 研究活動：

- ・平成15年度～平成18年度 基盤研究B(2)・不確実環境における森林資源最適確率制御モデルによる炭素固定の経済分析：本研究では、不確実性を考慮できる森林資源管理に対する最適確率制御モデルを構築し、構築されるモデルを用いて森林所有者の管理行動を予測・制御しつつ、温暖化防止に対する森林資源管理を通じた炭素固定機能の経済評価を行うことを目的としている。
- ・平成17年度 統計数理研究所共同研究・炭素循環における多機能木質バイオ資源利用の環境経済分析：本研究では、森林資源の木質バイオ資源としての機能に対し、炭素循環における環境経済価値の評価を行うことを目的としている。

4. 学生活動：

- ・環境経済・政策学会（早稲田大学、10月9日）にて中嶋一憲君が研究発表「地球温暖化によるカタストロフ・リスクを考慮した動的な一般均衡モデルの構築」